

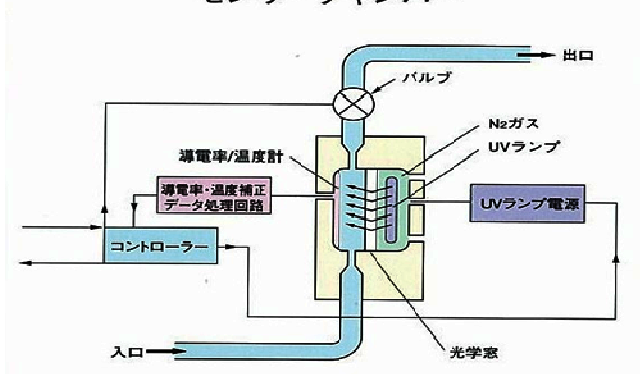
Reliability that meets the most rigorous standards

1984年にアナテルは、ユーティリティーに試薬やキャリアガスを使用しないオンライン型TOC計を世界で初めてリリースしました。
A1000シリーズは1992年の発売以来、改良を加えられながらロングセラーを続けています。

【主な特長】

- 測定には試薬やキャリアガスを使用しません
- ストップ・フロー方式および、UV光と酸化チタンの光触媒反応により、水中の有機化合物を二酸化炭素と水に完全分解する原理に基づいて設計されており、低濃度TOCの測定が安定しています
- 特にXP型はUVランプの高出力化・安定性とUV光の透過率の向上を実現し、酸化終了のエンドポイント検出用の新アルゴリズムとステップコンペーンションを導入した計算式を採用することにより、溶存酸素の少ない領域でも、高精度に測定を可能にしています

センサーチャンバー



【ストップ・フロー方式の利点】

- ◎ 1本の導電率センサーで検出しているため、より高感度で誤差の少ない測定が可能
- ◎ UV照射力がダウンしてきても、UV照射時間を自動的に延長し完全酸化するまで酸化分解が可能
- ◎ バッチ式のため、流量依存性がない

アプリケーション

- ✓ 300 mmラインの半導体工場や液浸露光装置用の超純水の管理
- ✓ 液晶、フラットパネル・ディスプレイ工場における純水製造システムの管理
- ✓ 発電所など純水中の管理

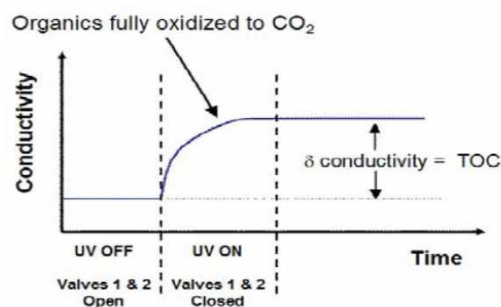
【 仕 様 】

		A1000 XPシリーズ	A1000 シリーズ
モデル名	ポータブル型	A1000-XP	A1000-S20P
	分離型(センサー部)	A1000-XPS	A1000-S10
測定レンジ		0.002 ~ 1.999ppb [XPモード] 2.00 ~ 1999ppb [標準モード]	0.05 ~ 1999ppb
計量限界		0.07 ppb	0.17 ppb
精度/再現性		± 0.05 ppb (0~0.999ppb) ± 0.1 ppb (1.000~1.999ppb) ± 0.5 ppb または 読み値の±5% のどちらか大きい方(2~1999ppb)	± 0.5 ppb または 読み値の ± 5% のどちらか大きい方
分解能		0.001 ppb (≦1.999 ppb) 0.01 ppb (≦19.99 ppb) 0.1 ppb (20.0-199.9ppb) 1 ppb (200-1999ppb)	0.01 ppb (≦19.99 ppb) 0.1 ppb (20.0-199.9ppb) 1 ppb (200-1999ppb)
比抵抗範囲		15.0 ~ 18.2 MΩ・cm [XPモード] 0.2 ~ 18.2 MΩ・cm [標準モード]	0.2 ~ 18.2 MΩ・cm
導電率測定レンジ		0.05 ~ 100 μS/cm	0.05 ~ 100 μS/cm
サンプル水比抵抗		① 5 MΩ・cm 以上 (全サンプル水) ② 1 MΩ・cm 以上 (中性水:pH7) ③ 0.1 MΩ・cm 以上 (CO ² が唯一の導電物質のサンプル水)	
サンプル水温度		18 ~ 32℃ [XPモード] 0 ~ 100℃ [標準モード] 注: 60℃以上ではオプションのサンプルクーラーを使用	0 ~ 100℃ 注: 60℃以上ではオプションのサンプルクーラーを使用
サンプル流量		80 mL/min以上	
耐 圧		10 ~ 100psi (60 ~ 690 kPa)	
電源/消費電力		100 ~ 240 VAC ±10%、50/60 Hz / 最大80 VA (0.8 A 100V使用時)	
寸法/重量	ポータブル型	350 mm (H) x 200 mm (W) x 165 mm (D) /6.8 Kg	
	分離型(センサー部)	350 mm (H) x 172 mm (W) x 115 mm (D) /5.4 Kg	
周囲環境		5 ~ 40 °C、95 % RH (結露しないこと)	
I/Oコネクション		4-20 mAアナログ出力×1 (オプションで比抵抗の出力も可能)、アラーム出力×1点	
ネットワークケーブル長		最大1 Km	
配管接続		SS 1/4インチ スウェージロック (IN - OUT共)	
その他		ポータブル型は、サーマルプリンター、キャリング用ハンドル付となります	

※ XPモード測定は2.0 ppb以上、15 MΩ・cm以下、32 °C以上になりますと、自動的に標準(A1000)モードに切り替わります。

【測定原理】

- ① IC(無機炭素): UVランプ照射前の導電率を測定
- ② 分析に入りUVランプを照射し、酸化分解するとCO₂となり、導電率は上昇
- ③ この導電率カーブを二次微分して、変化率ゼロとなったエンドポイントを完全酸化完了とし、この時点での導電率を:TC(全炭素)として測定
- ④ このTCからICを引いた差分をTOCとして算出 (δ conductivity)



* 記載の製品に関しては、改良のため予告なく仕様変更する場合がありますのでご了承下さい。

～製品についてのお問合せ～

販売店



株式会社ハック・ウルトラ

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 1-29-9

T Dビル 5 F

TEL : 03-6205-5510 FAX : 03-6205-5980

URL : <http://hach.co.jp>